

経済学 B

－ 拡張版シラバス －

明治大学 商学部
2026 年度 秋学期

授業の概要・到達目標

【授業の概要】 マクロ経済学は文字通り”マクロ的”視点、すなわち大きな視点から経済活動を分析していく学問である。例えば、日本は敗戦直後は非常に貧しかったが高度経済成長を経て先進国の仲間入りをした。しかし、未だにアフリカを中心に貧困に苦しんでいる国が数多く存在している。なぜ経済成長をして豊かになる国がある一方で、貧困から抜け出せない国もあるのだろうか。一方、日本はバブル崩壊以降、長期間の経済低迷に苦しんでいる。経済状態を改善するためにはどのような対策が必要になるのだろうか。経済成長や景気循環と景気対策といったマクロ的な経済現象について理解をすることが本講義の目的である。

【到達目標】 GDP やインフレ、失業率といったマクロ経済統計の仕組みを理解し、簡単なマクロモデルを駆使しながら日本経済で何が起きているのかを新聞や報道から読み解く力を身につける。

授業内容

週	日程	コンテンツ
Week 1	9月25日(金)	国の富(1)
Week 2	10月2日(金)	国の富(2)
Week 3	10月9日(金)	総所得
Week 4	10月16日(金)	経済成長(1)
Week 5	10月23日(金)	経済成長(2)
Week 6	11月6日(金)	なぜ豊かな国と貧しい国があるのか？
Week 7	11月13日(金)	雇用と失業(1)
Week 8	11月20日(金)	雇用と失業(2)
Week 9	11月27日(金)	クレジット市場
Week 10	12月4日(金)	金融システム
Week 11	12月11日(金)	景気変動
Week 12	12月18日(金)	反循環的マクロ経済政策
Week 13	1月8日(金)	マクロ経済と国際貿易
Week 14	1月15日(金)	開放経済のマクロ経済学

履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行うが、通常の授業と同じような感覚で受講してほしい。具体的には、動画を見ながら手を動かしてノートをとったり、図を描くことによって理解が深まる。また、動画配信の特性を活かして何度も視聴をすることも強く推奨する。

講義動画は原則毎週金曜日に Oh-o!Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、講義動画に対して、1週間程度の期限を設定した小テストを行い、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o!Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。

質問や意見交換がある際には、原則として Oh-o!Meiji の「ディスカッション機能」にて受け付ける。履修者への連絡については、Oh-o!Meiji の「授業に関するお知らせ機能」、もしくは「シラバスの補足」にて行う。詳細については、1回目の授業でも説明する。

最後に、授業で学習した内容を深く理解するために、新聞や雑誌、テレビなどで報道される経済ニュースを毎日必ず確認し、現実の経済で何が起きているのかに関心を持つようにしてほしい。

教科書

ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト (2020) 『ALL マクロ経済学』東洋経済新報社
※事前購入は必ずしもマストではありませんが、いい本なので購入をオススメします。初回の授業で本講義における教科書の位置づけについて説明します。

参考書

マクロ経済学 今後、さらにマクロ経済学を勉強したいと考えている人や、よりアドバンスド・レベルのマクロ経済学がどのように展開されているのかを知りたい人は、以下の本を参考にしてください。下の3冊は大学院レベルのテキストのため、その前に上の2冊(と経済数学)をしっかりと理解しておく必要があります。

- ・ 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田彰久 『マクロ経済学』有斐閣
- ・ ブランシャール 『ブランシャール マクロ経済学 上・下』東洋経済新報社
- ・ シュミット=グローエ・ウリベ・ウッドフォード 『国際マクロ経済学』東洋経済新報社
- ・ 伊藤隆敏・星岳雄 『日本経済論』東洋経済新報社
- ・ 仲田泰佑 『金融政策の理論と実践』日本評論社
- ・ 植田健一 『金融システムの経済学』日本評論社
- ・ 北尾早霧・砂川武貴・山田知明 『定量的マクロ経済学と数値計算』日本評論社

また、各講義スライドの最後に今後の勉強の指針として読むべき本・論文を紹介しています。

英語 経済学は英語で勉強したほうがわかりやすいことが多いので、英語で書かれた本も紹介しておきます。最後の David Romer (2018) は書籍ではなく、オンラインで無料公開されている講義ノートです。

- ・ Pablo Kurlat, *A Course in Modern Macroeconomics*
- ・ Charles I. Jones, *Macroeconomics*, WW Norton & Company.
 - 日本語訳もありますが、やや版が古いです
- ・ Eduard Challe, *Macroeconomic Fluctuations and Policies*, The MIT Press
- ・ David Romer (2018) "Short-Run Fluctuations", downloadable: <https://eml.berkeley.edu/~dromer/papers/Romer%20Short-Run%20Fluctuations%20January2018.pdf>

経済数学 本講義では、マクロ経済学の分析ツールを理解するために必要な数学的知識も講義の中で説明するが、より幅広く正確に理解したい人は以下の本を参考にしてください。

- ・ 尾山大輔+安田洋祐 『[改訂版] 経済学で出る数学』日本評論社

成績評価

毎週実施する理解度テスト (Quiz) と手を動かす課題 (レポート) で成績評価を行います。ただし、Web 上で回答する理解度テストには最終理解度テストも含まれます。最終理解度テストは、期末試験の代わりに実施するものです。

動画配信

原則として、金曜日 3 限 (13:30-15:10) にあわせてアップロード予定ですが、事情によって遅れることがあります。動画は Oh-o!Meiji 上で公開します。あわせて、講義スライドと動画視聴後に回答する理解度テストも Oh-o!Meiji 上で公開します。授業と同じような感覚で授業を受けてもらうため、毎週動画を視聴して、理解度テストに取り組んでください。

Course Overview and Learning Objectives

[Course Overview] Macroeconomics examines economic activity from a broad, "macro" perspective. The power of this approach becomes clear when we look at real-world examples. Japan, for instance, transformed from a poor nation after World War II into an advanced economy through rapid economic growth. Yet many countries, particularly in Africa, still face persistent poverty. This raises a fundamental question in macroeconomics: Why do some nations achieve prosperity while others remain poor? The Japanese experience offers another important case study, as the country has faced prolonged economic challenges since its bubble economy collapsed. This course explores such major macroeconomic phenomena, including economic growth, business cycles, and the policies designed to address economic challenges.

[Learning Objectives] By the end of this course, students will:

- Master the fundamentals of key macroeconomic statistics (GDP, inflation, and unemployment rates)
- Understand how these indicators reflect real economic conditions.
- Develop the analytical skills to interpret economic news using basic macroeconomic models.
- Gain the ability to understand and evaluate current economic events in Japan and globally.